



自宅ではなかなか勉強しなくて…

- ◎ 「〇〇年生だから、自宅で〇時間勉強しなければならない」などと、まるで「法則」のように言われることがあります。「なのに、うちの子は…」となり、落ち込んだり焦ったりしている保護者の方もいらっしゃるでしょう。「宿題に取りかからせるのにも一苦労する」という方もいらっしゃるでしょう。
- ◎ 勉強への取り組み方、理解の仕方、意欲は、子供一人一人が違います。「〇時間勉強しなければならない」という考え方はもたないほうがよいでしょう。では、どうしたらよいのでしょうか。同じ手立てでも、うまくいくケースといかないケースがあります。いくつか例を紹介するので、それをヒントに各御家庭でフィットするものを試してみてください。

◇勉強することへのハードルを低くするために

- ① 宿題を子供と大人とで半分ずつ手分けして仕上げる。
- ② 課題を解くためのヒントを大人が出してあげる。

これらについては、「えっ、なぜ？」と思われる方が多いでしょう。これは、どんな手段を使ってでもいから、とにかく「勉強するための習慣作り」「やった感、できた感を味わう」ことが大きなねらいです。

- ③ 課題の量、勉強時間を極端に少なくする。

疲れ果てて「明日はもう勉強したくない」と、子供に思わせるよりも、かなりの余力をもって終わるほうが、毎日続けやすくなります。

- ④ ささいなことでも、頑張りをはめる（結果ではなく）。
- ⑤ 勉強以外でも、スポーツ、趣味など、打ち込めるものに出会えるように応援してあげる。

何をするにしても、「モチベーション」と「エネルギー」は絶対条件です。

- ⑥ 低学年の子供なら、家族4人に同じ数ずつチョコレートに分ける、高学年の子供なら、消費税込みの物の値段を計算させるなど、生活の中に「勉強的な要素」を盛り込む。
- ⑦ テレビなどで、科学的な内容のスペシャル番組があったら、家族で見るようにする。

子供は本来は知的好奇心でいっぱいです。普段の生活の中でそれを刺激してあげましょう。

「小学生の頃、まったく家で勉強しなかったのに、中学生になったら、自分から進んで勉強するようになった」ということもあります。突然「やる気スイッチ」が入ることがあるのです。（実は、小学生の頃は真面目にコツコツ勉強していたのに、中学生になったら、全く勉強しなくなったという例もあります）大人たちはやるべきことをやったら、あとは「待つ」ことも大切になることがあります。焦りは禁物で、子供にも「伝染」します。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。
子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。